

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800117		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム南行徳		
所在地	千葉県市川市福栄3-15-15		
自己評価作成日	平成23年3月8日	評価結果市町村受理日	平成23年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15
訪問調査日	平成23年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者だけでなく、家族様にも安心して頂けるホームになるよう力を入れております。その為に、利用者の笑顔とスタッフの笑顔を大切にしています。家族会も行い家族の不安も減らしていけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新しく赴任したホーム長の下、ミーティング等の機会を通して、「1.その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフをサポートする。2.心を込めた、親切なサービスに努め、その心を磨く。3.様々な機会を通じて、地域の人々とのふれあいを大切にする」との3つの理念を理解し共有することに努めている。ホーム長は、職員一人ひとりに「その人らしい」とはと常に問いかけ、職員一人ひとりが又チームとして、入居者一人ひとりの思いを尊重し、生活のペースを入居者の流れに沿って支援し、入居者本位の自立した生活が継続できるケアサービスをする事を心掛けている。家族にも良くお話し理解協力して頂けるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の勉強会の実施。理念は2F、3F、4Fの事務所に掲示されており、職員が常に見ながらそこで過ごしております。日々の唱和で理解から実践に繋がる様に努めている。	質の高い介護サービスを提供するための「3つのこだわり」を運営理念として掲げている。新しく赴任したホーム長を中心に夕礼時に理念を唱和するとともに、ユニット会議で理念の理解と実践のための勉強会を実施している。	新任の職員が多いとのことであり、ホーム長が描いている入居者本位の個別自立支援をチームとして実現できるように、計画的な研修と個別のOJTによる研修等により個々の職員の介護力を向上していかれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に自治会長をゲストに招いたり、町内会の餅つきに参加したりしているが日常的な交流は弱い。	自治会の方がホームの敬老会に手品のボランティアに来たり、ホーム新聞を毎月回覧して頂いている。町内の餅つきに参加したりしているが、地域との日常的な交流とまでは至っていない。	近くの小学校の体験学習を受け入れたり、防災訓練時に参加いただいたり、地域の高齢者が自由に来て、一緒にお茶をしたりと日常的な付き合いを工夫されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を通じて相談窓口など伝えているが、現状として地域の人々に向けて活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を行い、現状や活動の報告と質疑応答を行っています。	状況報告・事故報告・消防訓練への参加・地域行事への参加等を議題とし、地域包括職員・町会長・家族等の参加を得て、2ヶ月に1度定期的に開催している。評価・要望・助言等を頂き、サービス向上に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が居宅支援事業所や市役所の高齢者福祉課や地域包括支援センターに適宜足を運んで、施設の空き状況を連絡しながらケアサービスの取り組みなど伝え、情報交換を行っている	市役所を適宜訪問し、担当者に空室状況やケアサービスの取り組み等を報告し、担当者から必要書類の確認や法令に関するアドバイスを等をして頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体の身体拘束のマニュアルがあります。ベッドの手すり、フロアの出入り口の施錠について指導や方針の説明を受けている。また拘束に対して日頃から意識して業務に取り組んでいる。また、玄関施錠は実施しておりますが、地域的なものを考慮しやむなくしております。	言葉によって行動を抑えることやベッドの柵等も拘束に当たることなど、常に拘束についての意識を強く持ち日常のケアにあたっている。階段からの転落事故防止と交通事故防止のため止む無く玄関の施錠をしている。家族と話し合い玄関マットセンサーの設置等を検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する資料を掲示し注意・防止に努めています。言葉から始まる事を思いスタッフが分からないうちに虐待が始まらないように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、必要な方がいない為、支援できてません。まだ学ぶ機会を作れていません。適宜、個々に必要性がある際は話し合い必要であれば活用して頂くように促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読んでいる途中途中で理解出来なかった所が無いかな聞きながら進めている。持ち帰って戴く際に、いつでも質問して下さいと声を掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に何回か設け反映させている。年1回会社でお客様アンケートを実施し苦情や意見を貴重な情報とし、運営を見直しています。	家族会を3ヶ月に一度開いている。新しい体制になってからの方針や取り組みをお話するとともに、ご家族から忌憚のない意見・要望をして頂くようにしている。提携医の往診時の支払方法などの要望を運営に反映させている。毎月の手紙で様子が良くわかるようになった。以前より来易くなったなどの声も聞かれるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回職員会議を開き、職員の意見、提案等で話し合い運営に反映させています。またユニット会議も月に一回行っています。	毎月のユニット会議や全体会議で、職員から提案があったことは先ず受け入れるようにしている。休憩が取りにくい・ケア中のエプロン着用の有無・入浴時間帯の件などの提案を着実に運営に反映させている。ホーム長自身も職員と同じ目線で、夜勤時等に個別に職員の話を聴き、職員からの自発的な意見を取り入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の取得の推奨や月間労働時間、シフト組みに関しては希望日を考慮している。また、スタッフの悩みや意見を汲み取り、ストレスのない職場環境を構築し、働きやすくしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やユニットリーダー研修をその都度開催している。また、無資格者の採用を行っており、訪問介護2級取得の支援や施設内でもCWが指導員となりOJTの実施を行っている。ホーム会議にてホーム内研修を行っている。外部研修の案内はあるが、外部研修の機会が確保できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同域内の他GHと食事会やレクリエーションなど交流機会を提供してくれている。日常においての相互訪問の機会はある。同じ施設同士では、勉強会、バレーボールサークルと活動を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向、意志、ご家族様からの情報、スタッフ間での情報交換をより拾い上げ安心確保の為に関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時に安心して頂けるようご説明し、アセスメント時には、ご家族の希望を伺い、ご本人が安心してホームで生活しているように支援していく事をお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを開催し、そのときの必要なサービス（当施設入居を含む）を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者が何を求めているのか、どのように生活していきたいのかを把握し、食事を共にする、暮らしに有する家事等、環境作りを考え共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い、ホームでの現状を話し合い、どのようにして行ったら良いのかと考える場を持ち、共に支えられる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外に知人等の訪問も受け付けている。ホーム側からの提供はなかなか難しい現状	同じアパートに住んでいた人が訪ねてくる。手紙の交換を楽しみにしている。馴染みの理美容院に行く。近所のコンビニに良く買い物に行き新しく馴染みになる。など馴染みを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り会話を広げたり、レクでも孤立しないように声をかけて誘っている。個人、人間関係の状態把握に努め、支援できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された場合、病院に行かれる事が多い為、経過等聞くことはあっても相談、支援は今のところ、ありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりより、汲み取り希望、意向に沿えるように努めている。居室担当を割り振っており、ご利用者の会話の中からの思いや希望を探り出している。困難な場合はご家族にも協力してもらっている。	利用者の顔の表情などを観察し、その積み重ねから本人の思いをくみ取るようにしている。生活歴で、晩酌を楽しんでいた方には、週1回程度の晩酌の場を検討中。普段の会話などから、お刺身を食いたい方には、外食にて楽しむ機会を検討中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話や関わり、情報書類、ご家族様との情報交換により努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、スタッフの情報交換を密にし努めている。一人ひとりのできることを把握し行ってもらうように支援をしている。家でしていた事をホームでも行えるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスを通じて、関わりある関係者との話し合いや意見の反映を心がけ努めている。サービス担当者会議を開き、3ヵ月ごとのケアプランの作成を実施している。また、個々にあった支援を実施している	職員の気づきを申し送りノートに記入し、職員で共有している。アセスメントは居室担当が行い、ケアマネがチェックしている。短期目標のモニタリングも居室担当が行う。家族、主治医、歯科医、マッサージ師などの意見を聞きプラン作成に反映させている。サービス担当者会議の要点をフロア会議で周知徹底し、ケアプランを全員で把握する形をとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録のあり方についての勉強会も実施し、職員間で情報共有できるように努めている。実践と記録より活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化について理解をし取り組んでいく様心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、参加状況は厳しい。今後、支援に繋がる様、把握に努めている状態。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療(24時間365日対応)をおこなっている。また、入居前からのかかりつけ医がいらっしゃる場合は、それも個々に応じて対応している	精神科、皮膚科へは家族が受診同行している。訪問歯科を定期的に受診している方が3名いる。かかりつけ医は内科の往診医となり、電話相談、急な往診も可能となっている。かかりつけ医の変更に関しては、医師と看護師とが話をしてご家族が契約をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護(24時間対応)が週1回実施している。ご利用者の状態を把握に努めて、その報告を主治医に報告もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先の訪問医に紹介状の作成を依頼するとともに、受け入れ先もご家族の希望をきき入院していただく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、往診、医療機関と最善な今後の支援の取り組みを行っている。	医療行為が発生しないかぎり、入居が可能であるが、方針としてはターミナルは行っていない。水分、食事が摂れなくなったり、医療行為が必要となったときには、入院となる。座位が保て、立位がとれるうちは、対応が可能である。5名の方には、入居時に特養の申し込みをしてもらっており、カンファレンスでも特養申し込みについて話をしている。	今後は、5名以外の以前から入居されている入居者・家族とも、今一度ホームのターミナルに対する考えを良く話し、ターミナルの方針を共有しておかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成、勉強会の実施により又、事故対策委員を作り事故防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	次回の消防訓練に自治会長さんに参加していただく予定。勉強会の実施はしている。	昨年10月に消火・通報・避難訓練を行った。ベランダには脱出袋が設置されている。食材の備蓄もある。近隣の職員から連絡できる緊急連絡網も整っている。	緊急連絡網を用い、夜間を想定しての召集訓練を予定されているので、実施を期待します。また、各フロアごと、定期的な避難誘導訓練の実施を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも敬意を持ち、常にプライバシーを損ねる声かけはしない様にしている。入室時は必ず断り、トイレ介助時はドアを閉めるようにしている。	家族やお客様が聞いて、不快に思うことのないような声かけや、利用者への言葉が馴れ馴れしくなったり、命令口調になることのないよう心掛けている。「ダメ」と言わないようにし、「待ってて」という場合でも理由をわかりやすく話して伝えるようにしている。ドアを開けるときにはノックをし、トイレのドアを閉めるなども配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来るように働きかけ、生活においてしたい事を自分で決められながら暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	原則的な時間の部分もあるが、一人ひとりのペースを大切にし、居室で休みたい場合等は無理に誘わないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、身だしなみやおしゃれが出来るように働きかけ支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のADLやできることを考慮し、ご利用者に様々な食事準備やあとかたづけを手伝っていただいている。食事は利用者様と一緒に食卓を囲み行うようにしている。	メニューは本社が作成し、買い物は自分たちで行う。肉、魚は食材屋を利用。調理の下ごしらえや盛り付け、下膳、食器洗いを行う利用者もいる。手作りおやつの日もある。本人の好みに合わせ、メニューを変えたり、形態を変えて提供している。フロアごとの外食を行っており、個々での外食もとりにいれていく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし、食事量が少ない時には、代食を用意したり、水分があまり摂れてない時は、好みの物で摂れるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、洗面台にて口腔ケアのこえ掛け、見守りを行っている。又、自分で毎食後、口腔ケアを行っている利用者様もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、オムツの方も日中は声掛けにてトイレで排泄出来るようにスタッフの連携、記録で実践しています。排泄チェック表を利用し、排泄の自立に向けて支援を行っている。	座位のとれる方には、トイレに座ってもらうよう取り組んでいる。排尿間隔を知ることで、パットではなく、トイレでの排泄となるよう誘導している。夜間おむつを使用している利用者でも、日中はリハパン使用となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼らず、適切な水分量を摂ってもらうと共に、牛乳等の乳製品の活用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回は入浴出来るようにし、利用者様に合わせ、午前から午後と利用できるように支援している。基本的に入浴日の設定は設けておらず、ご利用者の希望やタイミングをはかってご入浴の支援を行っている。その為、夜間に入浴される方もみえる。	入浴拒否のある方には、入浴時間を変更したり、家族に声掛けを協力してもらったりと工夫している。週5回入浴している利用者もいる。二人介助で入浴している方は3名となる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に誘導はせず、利用者様のペースに合わせ、就寝誘導している。眠れない時等、食堂や食堂で話をしたりと安心して休息できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、使用している薬の効果について理解出来る様に努め、複数のチェックやこえ掛け合いにより、誤薬や飲み忘れがないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある日々を過ごせるように、気晴らしや個人にあった支援を出来る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフがギリギリの為、一人ひとりの希望に添えられていないが、買い物、散歩など出来るだけ行くように努めています。ユニット内、ホーム、会社内にて企画し努めている。日々の散歩等については、今後の課題。	散歩は8人ぐらいつつで出かけ、15分～45分コースと10分コースがある。散歩途中の公園では、地域の方とのおしゃべりを楽しむ利用者もいる。1週間に3～4日散歩に行くことができています。利用者と一緒に、近くのコンビニへ日用品を買いに行くこともある。フロアごとに外出を企画し、初詣や葛西臨海水族館に出かけている。	今年になり、外出に力をいれるようになったそうで、「外出させたい」というホーム長と職員の意欲を感じ取ることができた。計画中の季節の外出や個々の外出をぜひ実現することを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	玄関の自動販売機に飲み物を購入しに行く程度であり、それ以上の事は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話の希望があれば、電話して頂き手紙が着たら返事を書いたりとしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者様にとって不快にならない様に配慮している。日めくりカレンダー、お雛様など季節の物を飾って居心地良く過ごせるようにし、季節や天候により空気の入れ替えを日々、行っている。	各フロアごと入口には玄関がある。リビングは白で統一されており、廊下には手すりが設置されている。4階では、日の当たるところにソファを設置、ベランダにも椅子を用意して日光浴を楽しむことができる。ベランダのお花に水やりをする利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置により利用者様同士で思い思い過ごせる様にし常にオープンにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室担当を決め、居心地良く過ごして頂けるよう心がけ工夫している。	エアコン、電気、洗面、洋服かけが完備されている。利用者が持参されたものとしては、テレビ、机、ベッド、ラジカセ、タンス、仏壇、ぬいぐるみ、植木鉢、阪神グッズなど多様であり、自宅にあったものを持参してもらうようにしている。各部屋入口にはネームプレートがある。ベッドの配置などは起き上がりしやすいよう相談している。介護ベッドに変更になった人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「分かる力」を活かす為や混乱等が起きないようにドアに飾りつけをしている。又、廊下に手すりをつけ「出来ること」を活かす為、自信で移動できる様にしている。スタッフと一緒に出来る事、見守りで出来る事を調理、ボタン付け、新聞折、洗濯物たたみに分けてやって頂き自信に繋がる様、努めています。		